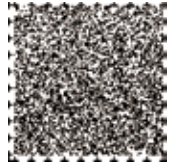


社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第49号



〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-2 3-2 7 2 0
Fax: 0853-2 3-2 7 2 1
E-mail shien@heartpia.or.jp
ホームページ
http://www.heartpia.or.jp

<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

ドキュメンタリー映画『みんなの学校』を紹介します

～不登校も特別支援学級もない 同じ教室で一緒に学ぶ ふつうの公立小学校の みんなが笑顔になる挑戦～



書店でふと手にした一冊の書籍を読み、心を動かされたのが2年前。この書籍で登場した大空小学校が、自閉症啓発デーのイベントの映画『みんなの学校』に登場していることを知り上映会に出掛けました。

キーワードは【居場所】【自分の学校は自分でつくる】

ある出来事により子どもを先入観でみていた校長の気づきから「子どもから学ぶことができる大人になる！」とやり直し一号宣言をします。そこから大阪の公立大空小学校の新しい学校づくりが始まりました。

学校にあるのはたった一つの約束“自分がされていやなことは人にしない、言わない”

特別な配慮が必要な子ども達は全校児童 200名のうち20名。特別支援学級はなく、同じ教室で学びます。みんなが知っていればみんなで褒められる、みんなで細やかに見ることが出来ることから、教職員みんなが対応、みんなでチーム。それは子どもに対してだけではなく、教職員に対して、大人も一人じゃないスタイルです。

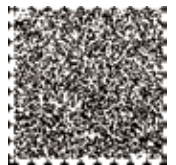
そして、学校に関わる人は、地域の人も親も全員がサポーター。

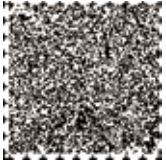
ある朝の荷物だけ遅刻しなかった話。両親が早朝からの仕事で生活が不規則なため、朝、学校に行きにくい子がいます。家に行ってみると寝ています。声を掛けられ目を覚まし、準備をすると眠そうな顔でトボトボと学校へ向かいます。かばんと傘はサポーターさんが持ち、先に学校へ着きました。荷物だけ遅刻しませんでした。そのかばんと傘を「どうする?」「教室まで持って行く?」とサポーターさん同士の会話。結果「傘が教室にあると振りまわすね(笑)」「(傘立てに)置いておこうか(笑)」「そうだね(笑)」サポーターさんが子どものことを理解しているからこそその会話になごみます。

2ページにつづく

もくじ

- 映画「みんなの学校」紹介・・・・・・・・・・1 p～2 p
- 放課後等デイサービスの一日の最後にすること・・・・・・・・2 p
- 職場内研修～避難所体験ゲーム・・・・・・・・・・3 p
- 黄色いレシートキャンペーンについて・・・・・・・・4 p





2分の1成人式（10歳の成人式）では、友だちや保護者の前で決意表明をします。友だちを殴らないと約束をしてもつい破ってしまう子がつらそうな表情で話し始めます。「友だちを殴らないと約束したのに、殴りました。友だちを殴らないと約束します。」自分と向き合い、自分を認め、勇気を出したその短い言葉の中にはいろんな気持ちが詰まった涙ながらの宣言でした。本気が伝わります。

日中に黙って学校を出て行ってしまおう子、こちらも学校を抜け出すのには理由があります。子どもが言う「嫌!!!」。その一言には、その子の気持ちが入っています。“こんなことが嫌だった”。学級で集まって話し合いをします。

まわりの子もたちが「嫌」の気持ちをわかりたいと思い、その気持ちを理解したら、子どもたちの態度と言葉が変わります。そして、「嫌」の気持ちを分かってもらえた子はやわらかな表情に変わりました。

友だちの気持ちをわかりたい、わかってもらいたい、向き合うそのひたむきな姿に心が動きます。子どもたちが関わり合いの中で成長し、気持ちに変化し、心がはぐくまれていることが伝わります。困難に真剣に立ち向かい、認め合い、クリアしていくことで【居場所】をつくりあげ【自分の学校は自分でつくる】ことに結びつくと思えました。大空小学校には自分のままで居てもいいという安心感の中で過ごせる居場所であることを感じました。登場する子どもたち、教職員、地域の人たち、みなさんがとても素敵でした。

みんなの学校はみんなでつくる、自分の学校は自分でつくる。“学校”を自分の“学校”“職場”“地域”などに置き換えてみるのもいいかもしれませんね。

あなたのままでいいと認められ、自分のままでいいと実感し、一緒にいると心地よい人や場所が居場所ではないかなあと思うこの頃です。

みなさんは、【居場所】がありますか？まわりの人はどうでしょうか？

(文：法人本部事務局 高橋 悦子)

放課後等デイサービスの **1日** の活動の最後にすること

放課後等デイサービス スクラムでは、1日の活動の最後に帰りの会を行います。帰りの会ではその日遊んだことの発表や「すてきで賞の発表」をします。「すてきで賞の発表」では、その日の友だちの素敵だったところを見つけ、挙手してみんなの前で発表します。

スクラムの「すてきで賞の発表」では、

- ・消しゴムを持っていなかったら、〇〇さんが消しゴムをかしてくれた
- ・〇〇さんが使っていたホッピングを使いたくて「かわって」と言ったらかわってくれた
- ・鬼ごっこに入りたいくて「入れて」と言ったら「いいよ」と言って入れてくれた
- ・「一緒に遊ぼう」と言って誘ってくれた



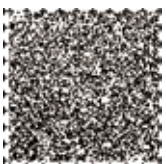
「すてきで賞シール」

などなど、自分で見つけた友だちの素敵だったところを発表しています。発表された人は、ご褒美として前に出て「すてきで賞シール」をもらうことができます。「すてきで賞シール」は毎月季節のシールなどに変えており、集めてコレクションにしているお子さんもいます。お子さんによっては帰るときに保護者の方に、嬉しそうに誇らしげにシールを見せている方もいます。素敵だったところを発表されたお子さんは、更に素敵なことを頑張ることや発表してくれた子の素敵などを探すなど、素敵なサイクルを生み出しています。素敵だったところを発表されたお子さんはもちろんですが、発表しているお子さんも笑顔だったり、照れくさそうだったり、とてもいい表情をされています。そんなお子さん方の姿を見ているとこちら心も温かくなりほっこりします。

他人の素敵などところを見つけることはとても大切なことだとスクラムのお子さん方の姿を見て改めて感じている日々です。わたしもスクラムのお子さんを見習って人の素敵などところを見つけ、それを発信できるようにしていきたいと思っています。

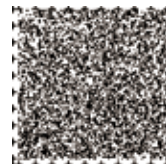
(文：児童指導員 大國 茜)

●一日の活動の終わりにその日素敵に活動をした人を手を挙げて発表する様子。



いざという時の為に！

実際にハートピア出雲での避難所づくりを想定して避難所体験ゲーム(男女共同参画 HUG)を実施しました。



6月15日に職員の職場内研修として、出雲市男女共同参画センターの森脇都多江さん、久野みちるさんを講師にお招きし避難所体験ゲーム(男女共同参画HUG)を行いました。これは、安心できる避難所作りを行なう体験型の研修です。

まず、DVDを視聴し、東日本大震災の避難所運営や復興プロセスにおいて女性や幼児、弱者への配慮が課題であった事を知りました。それをふまえて、7チームに分かれて安心できる避難所作りを体験しました。メンバー同士自己紹介を行い、それぞれ得意な事苦手な事を伝え合い、生かして、リーダー、物資分配、炊き出しの役割分担をします。具体的な避難所作りでは、幼い児童のいる家族、高齢者、身体障害者、夫のDVから逃げている家族、性同一性障害の人、発熱のある人など様々な境遇の避難者を安心して過ごせるスペースに配置し、受付、救護室、掲示板、日用品、衣料、おむつ、物資、トイレ、仮説トイレ、テント、ブルーシート等の配置も考え避難所を作成しました。各グループで、男性棟、女性棟、家族別、地域別、年齢別に分ける配慮や、男女別の着替えスペースや洗濯場所の他、談話室、女性スペース、授乳室など様々な工夫がなされ、安心して過ごせる避難所作りを考える事ができました。

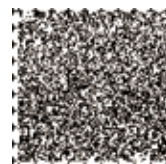


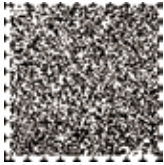
今回の研修では、実際の避難所作りを体験した事で、お互いの人権に配慮した取り組みはどのようにしたら良いのか様々な視点から考える事ができました。様々な役割分担に女性が必ず入っている事で女性の意見を取り入れ、女性の目線に立った配慮が行なえます。物資分配では女性から受け取りたい物資もあり、炊き出しも男性も行なう事で女性の仕事にならないような工夫が必要です。長い避難生活では、プライベートなスペース

が設けられず性犯罪などが起きている現実もあります。今回のように皆で力を合わせて様々な立場に立ち、様々な視点で物事を考える事が非常に大切であると感じました。今回は、用途別に空間が分けられているハートピア出雲での避難所作りの想定であった為、プライベートなスペースなど配慮がしやすい面もありましたが、実際の避難所では、体育館のような仕切られていない空間である為、様々な物を利用し、工夫してプライベートなスペースを確保する工夫が大切になってきます。また、実際の災害場面では、動揺しパニックになると冷静な判断ができにくくなる為、今回のように一度体験してシミュレーションを行な

う事が非常に大切だと感じました。

(文：研修委員 周藤 由里子)





「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」 で玩具の寄付をいただきました。

「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、イオンスタイル様が地域への社会貢献活動を行う「イオン・デー」(毎月11日に開催)に、地域で活躍されている団体などに対して、地域のお客さまとともに応援し、イオンスタイル様がその活動に役立つように物品をもって助成するものです。

日中一時支援・リバティーでは、今年4月に「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」活動の一貫として、玩具等を寄付して頂きました。子どもたちは成長に繋がる動作の練習にしながら、楽しく遊ばせていただいております。イオンスタイル様及び活動にご協力してくださった地域の方々に厚くお礼申し上げます。



※写真はご家族の了承を得て掲載させていただいております。

(文：日中一時支援リバティー指導員 長岡 恵美)

【工賃実績のお知らせ】

島根県	事業所数		平均工賃月額(円)			前年度比 H30/H29
	H 29	H 30	H 28	H 29	H 30	
就労継続支援A型(雇用型)	31	33	84,638	84,631	88,312	104.3%
就労継続B型(非雇用型) (工賃向上計画対象事業所)	110	120	18,994	19,133	19,673	102.8%

○障がい者就労支援事業所 ワークセンター フロントの平成30年度就労継続支援B型事業における平均工賃は月額 25,365円 になりました。(令和元年度目標工賃 27,200円)

○島根県内の障がい者就労支援事業所等における工賃状況(平成30年度実績)
・工賃向上計画の対象事業所の平均工賃は月額 19,673円、前年度比 540円増加しました。

(柳楽武臣)

編集後記

◆前号のトピアで記事になった岡紀彦さんにつづき、もうひとり先天性骨形成不全症でありながらパワフルに生きる女性についてご紹介します。現在は東京在住の伊是名夏子さんという2児の母。これまで幼少期は何度も骨折を繰り返しその度に入院、手術を幾度も経験。にも関わらず、持ち前のど根性! ? パワーでいつも笑顔で周囲に接してこられ結婚、出産を経て只今子育てに奮闘中。今年5月に「ママは身長100cm」という本を初出版されましたので、興味のある方はご一読ください。【編集長 米山】